
親友からのメッセージ

エイプリル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

親友からのメッセージ

【Nコード】

N9174A

【作者名】

エイプリル

【あらすじ】

夜遅く届いた親友からのメール。僕は見ないで寝てしまった。僕はメールを見ておくべきだと後悔した。

夜遅くメールが届いた。

それは、親友のたかしからのメールだった。

午前2時を過ぎていたから、僕は確認しないで寝てしまった。

もし、メールを見ていれば、あんな事、起きなかったかもしれない。
ったのに。

僕、朝宮慶太は一生忘れない。

愚かな親友。

真島たかしを。

僕は久しぶりに朝寝坊をした。

毎朝、テレビでニュースを見ながら朝食を食べるのが僕の日課だったのに、今日は何もしないで家を飛び出した。

いつもなら、校門で竹刀を持って君臨している生活指導の田辺が今日はいなかった。

ただいまの時刻はAM8時50分。

完全に遅刻だった。

（確実に一時間目は廊下で立たされるな）

そんなことを考えながら、教室に走っていた。
教室に到着すると誰もいなかった。

僕の席は入口側の一番前の席だ。僕は机に鞆を置いて、席に座った。
暇だから、携帯を開いた。

ディスプレイは新着メールのままだった。

「そういえば、たかしからのメール見てなかったな」

僕はたかしからのメールを開いた。

「お前にだけは伝えとくな。今から俺、死ぬわ。わりいな。お前に嫌な思いさせちまうけど、許してくれよな。親友」

これがメールの内容だった。

「は、ははは。何だよこのメール」

僕は泣きながら笑っていた。

このメールが嘘じゃないと分かるから。

「慶太。今、来たのか」

どうやら、クラスメイトが戻ってきたみたいだ。

「……驚かずに聞けよ、たかしが」

「知ってるよ」

僕は携帯を握りしめて立ち上がった。

教室の天井を見上げ、今は無き親友に黙祷を捧げた。

後で、家で新聞を見ていて分かったことだ。

たかしが死んだ理由は、一家心中だった。

家族全員が大量の睡眠薬を服用し、窓を閉めきったリビングで、一酸化炭素中毒を起こして亡くなっていた。

たかしはどんな気持ちで死んでいったか、僕は何となく分かった気がした。

もう一度、僕は黙祷を捧げた。

でも、すぐにやめてしまった。

許せなかった

家族のために、自分を犠牲にした親友を。
その親友を見殺しにした僕自身を。

新聞を力いっぱい握りしめた。
新聞を貫通して、掌に爪が食い込んだ。
その血は新聞を赤黒く染めた。

（後書き）

短い小説はすごい難しいと、思いしらされました。

次までにはもっとわかりやすく書けるように精進したいと思います。

最後まで読んで頂きありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9174a/>

親友からのメッセージ

2010年11月25日02時42分発行